

今回は科目「総合実習」で行った飛石の施工について紹介します。飛石というのは、安土桃山時代の茶庭に取り入れられた和風庭園の技法の一つです。当時は着物に草履のような履物の時代…。雨の日、茶室に行くまでの道のりで、足元が汚れてしまわないように、というおもてなしの精神から飛石が施工されるようになりました。そんな時代背景なども勉強し、いざ施工！

石の向き、置く場所を決めたら、石よりも一回り大きめの穴を掘ります。そして、石が地面から5cmの高さ（このことを「**ちり**」といいます）かつ、水平になるように班員全員で取り組みます。



1石目が決まったら、続いて2石目の施工です。2石目は1石目と同じ高さかつ、1石目から50cmの位置に施工しなければなりません（「**わたり**」といいます）。また、石と石の面が揃っていること（「**合端**」といいます）など、条件が一気に増えます💧これに1年生も苦戦しました。



石が重く施工は大変ですが、3石目まで完成すると、みんな笑顔に😄👏 完成した園路を歩くのが楽しかったという声もありました。後半組は真夏日の中頑張りましたね👏 6月に入り、専門的な学習や実習が増えてきました。次の実習も楽しみですね！